

月刊 しばうら

2020年9月号

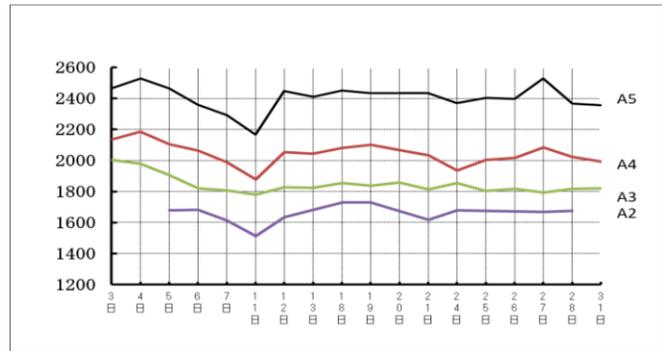
牛肉営業部

<8月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 3 円安の 2,410 円(前年同月比 263 円安)、A4 が同 15 円高の 2,056 円(同 320 円安)、A3 が同 5 円高の 1,849 円(同 326 円安)、A2 が同 82 円高の 1,652 円(同 287 円安)となり、交雑牛去勢は B4 が前月比 38 円高の 1,549 円(前年同月比 218 円安)、B3 が同 72 円高の 1,404 円(同 276 円安)、B2 が同 100 円高の 1,241 円(同 295 円安)、乳牛去勢は B2 で前月比 90 円安の 830 円(前年同月比 97 円安)となった。

月初めこそ、旧盆商戦の手当て買いにより堅調な相場で推移したものの、連休中の帰省や行楽需要が自粛傾向にあり、連休明け以降も相場を支える要素に乏しく、先月と比べると底堅いものの和牛・交雑牛ともに月の後半にかけて弱含みの展開となった。

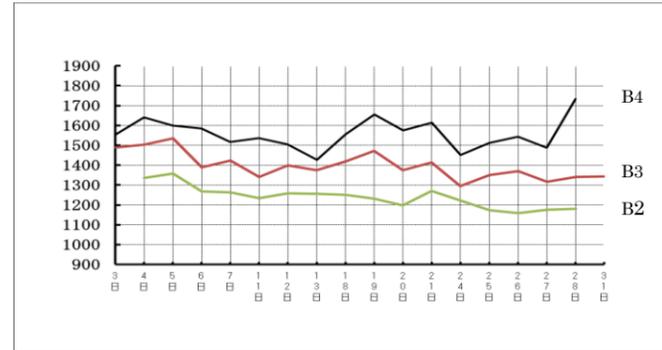
和牛去勢 日別相場表(8月)



和牛去勢(月平均)

A5	2,410 円	(前年同月比 90.2%)	(前月比 99.9%)
A4	2,056 円	(〃 86.5%)	(〃 100.7%)
A3	1,849 円	(〃 85.0%)	(〃 100.3%)
A2	1,652 円	(〃 85.2%)	(〃 105.2%)

交雑去勢 日別相場表(8月)



交雑去勢(月平均)

B4	1,549 円	(前年同月比 87.7%)	(前月比 102.5%)
B3	1,404 円	(〃 83.6%)	(〃 105.4%)
B2	1,241 円	(〃 80.8%)	(〃 108.8%)

乳牛去勢(月平均)

B3	上場なし		
B2	830 円	(前年同月比 89.5%)	(前月比 90.2%)

<9月の牛肉輸入量予測>

財務省の輸入通関実績によると、7月の牛肉輸入量は前年同月比 15.8%減の 5 万 2,629 t と前年を下回る輸入量だった。内訳としてチルドが同 15.2%減の 2 万 3,273 t、フローズンは同 16.4%減の 2 万 9,356 t となった。新型コロナウイルス感染症の影響により外食関係の需要が弱く、チルドはロイン関係が落ち込み、フローズンは現地コスト高の影響で豪州を中心に大きく減少した。

農畜産業振興機構によると、9月の牛肉輸入数量は前年比 5.2%減の 4 万 7,900 t で、チルドは同 0.3%減の 2 万 1,400 t、フローズンは同 8.6%減の 2 万 6,500 t と予測。9月の出荷量は前年比 4.5%増の 7 万 9,600 t、推定月末在庫は同 3.5%増の 13 万 5,500 t と予測している。

輸入牛肉通関量		7月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,574	12,240	86.4%
	米国	10,793	12,842	84.0%
	その他	1,906	2,355	80.9%
	合計	23,273	27,437	84.8%
フローズン	豪州	12,045	17,544	68.7%
	米国	11,625	11,764	98.8%
	その他	5,686	5,795	98.1%
	合計	29,356	35,103	83.6%

単位：t

出典：食肉速報

<9月の全国出荷頭数予測>

家畜改良センターの発表による 7 月末現在の全国の飼養頭数は 390 万 6,053 頭(前年同月比 1.4%増)となり、前月比で約 6 千頭の減少となっている。黒毛和種は 170 万 6,755 頭(同 2.9%増)、交雑種は 50 万 2,450 頭(同 2.4%増)となった。ホルスタイン種は 161 万 6,239 頭(同 0.6%減)で、雄(去勢)が 5.2%減少し、雌は 0.3%の増加となった。また、全国の牛飼養施設数は 5 万 6,276 カ所(同 3.7%減)となり引き続き減少を続けている状況となっている。

農畜産業振興機構による 9 月の成牛の出荷頭数予測では、前年同月比 1.4%減の 8 万 2,900 頭で、品種別にみると和牛は同 1.9%増の 3 万 6,200 頭、交雑種は同 4.4%減の 1 万 8,200 頭、乳用種は同 3.8%減の 2 万 7,000 頭としている。引き続き和牛の出荷頭数は増加、交雑種・乳用種は減少傾向となっている。

東京食肉市場の 9 月と畜頭数は 7,500 頭を見込んでいる。

<9月の牛枝肉相場見通し>

9 月の枝肉相場の見通しは新型コロナウイルス感染症の影響により依然として不透明のままではあるが、海外輸出は単価が下がったものの、数量ベースでは回復傾向にあり、飲食店においても春先に比べれば客数は回復傾向にある。しかしながらコロナ禍以前の水準とまではいかず、業態によっては依然深刻な状況となっている。和牛は高価格部位ほど売上不振となっており、上位等級ほど枝肉の仕上がりによって等級内格差がつくものと思われる。交雑牛は和牛相場如何ではあるが、出荷頭数の少なさから比較的堅調に推移するものと思われる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400~2,500	B4	1,500~1,600
A4	2,000~2,100	B3	1,400~1,500
A3	1,800~1,900	B2	1,200~1,300
A2	1,600~1,700		
乳牛去勢			
B3	1,000~1,100		
B2	900~1,000		

豚肉営業部

7 月の全国と畜頭数は前年同月比 0.4%減の 135 万 6,453 頭と前年同月より減少した。また 7 月の豚肉通関数量は 7 万 5,070t(前年同月比 12.1%減)と前年同月を大きく下回り、前月比でも 5.7%の減少となった。内訳はチルドが 3 万 4,670 t(3.7%減)、フローズンが 4 万 401t(18.2%減)。

2019-2020 年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
7	74,899	85,315	21,828	192,531	76,348	76,736
8	67,745	84,982	20,615	200,018	68,891	77,385
9	68,819	78,125	20,351	197,854	69,025	80,399
10	79,112	83,940	20,128	198,840	79,247	82,954
11	77,534	82,715	21,804	191,175	75,817	90,380
12	80,884	72,264	20,806	181,469	81,783	81,970
1	80,864	72,280	21,474	187,738	80,150	66,011
2	73,425	66,987	23,077	185,042	71,714	69,683
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
比	99%	88%	98%	106%	99%	108%

比：最終月の前年同期比

出典：農畜産業振興機構

単位：t

7 月豚肉通関実績						単位：t		
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比			
アメリカ	15,124	82.2%	デンマーク	6,071	71.9%			
カナダ	17,065	102.4%	スペイン	10,027	79.8%			
メキシコ	2,474	262.9%	メキシコ	6,104	71.7%			
			アメリカ	3,531	79.4%			
			カナダ	2,820	80.5%			
合計	34,670	96.3%		40,401	81.8%			

<8月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3日	62,600	648	633	739
4日	64,800	671	661	1,163
5日	64,400	673	647	722
6日	66,400	650	626	789
7日	65,600	635	610	1,066
平均	64,760/日			896/日

盆休みを前に手当が増えたことから、相場は堅調に推移した。一方で輸入物の供給量や価格が回復しているため、輸入物の特売が徐々に組み始めた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	72,500	593	551	919
12日	67,200	569	540	1,006
13日	41,800	534	506	774
18日	64,800	608	580	1,010
19日	62,600	629	616	735
20日	63,900	641	617	822
平均	62,133/日			878/日

今年の盆休みは新型コロナウイルス感染症の影響により帰省を控える人が多く、行楽需要などは例年に比べて伸びなかったが、都市部からの移動が少なかったため、量販店などの売れ行きはそれなりに堅調な状況にあった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	61,200	646	634	846
24日	62,100	642	614	615
25日	64,600	661	647	936
26日	62,100	652	622	699
27日	63,400	662	645	628
28日	61,000	671	655	828
31日	61,800	673	656	556
平均	62,314/日			730/日

全国的に猛暑が続いた影響により全国と畜頭数は概ね 6 万頭前半にとどまったが、その一方で底堅い需要に支えられ、相場は 650 円前後の展開となった。

< 9 月豚枝肉相場見通し >

農林水産省による 9 月の肉豚出荷予測では 133 万 7,000 頭(前年比 104%)と予測している。当市場の 9 月集荷予定頭数は 1 万 6,000 頭、1 日あたりでは約 800 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 9 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 1,100t(同 91.0%)、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 1,900t(同 108.7%)、冷凍輸入量は 3 万 9,200t(同 80.3%)と予測している。

冷蔵品輸入量は、前年同月の輸入量が台風 21 号の影響により少なかったことから、前年同月をかなりの程度上回ると予測する。なお 3 ヶ月平均では前年同期をわずかに下回ると予測する。冷凍輸入量は国内の在庫が高い水準にあることと、前年の輸入量が中国における ASF の影響による先高感で多かったことから前年同月を大幅に下回ると予測している。なお 3 ヶ月平均でも前年同期を大幅に下回ると予測する。

9 月前半は猛暑の影響から増体悪化により出荷頭数はなかなか増えてこないと予想される。また、去年は台風が大きな被害をもたらしており、今年も台風の大きさによっては災害による流通への影響や輸入物の遅れなど、国産物の売れ行きに影響を与えることが懸念される。

まもなく政府による「Go To Eat キャンペーン」も実施される方向となっており、外食業態の需要回復にも期待が高まる。

以上のことから当市場の上物平均価格は 550 円前後、中物平均価格 530 円前後の展開と予測する。

豚 日別相場表(8月)

